

各 位

2024年6月20日
株式会社リットーミュージック

演奏、機材、音楽理論など、ギタリストに必要な情報を全網羅！
中上級者向け教本『新・ギタリストのための全知識 増補新装版』、6月20日発売



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『新・ギタリストのための全知識 増補新装版』を、2024年6月20日に発売します。

楽譜の基本



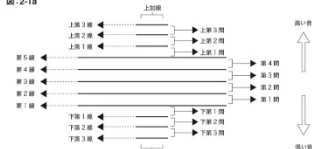
まずはおさらいもかねて譜面の基礎知識を確認していきましょう。

五線譜各部の名称

□ 線と間

平行に引かれている五本の線はそのまま“線”と呼び、一番下から第1線、第2線、第3線と呼びます。線と線の間は“間(かん)”で、線と同様に下から第1間、第2間、第3間となります。音程の上下が五線の範囲を超える場合は、上下に“加線”と呼ばれる線を加え、五線に近い方から上(または下)第1線、第2線、第3線となります。

図2-1a



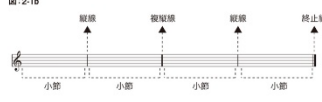
□ 小節

小節 (bar) とは、楽曲の持つベーシックなリズムがわかるように、五線を規則的に区切った部分のことを指します (例: リズムが4拍子の楽曲の場合は1小節につき4拍分の内容が記入される。同様に3拍子の場合は1小節につき3拍分の内容が記述される)。

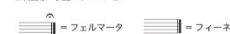
各小節を区切る線の一本線は、“縦線(じゅうせん)”と呼びます。そして、セクションの切れ目となる(イントロ部、Aメロ部、Bメロ部などの項目)部分に引かれる2本の縦線が“縦線(ふくじゅうせん/英語では“double bar line”/略してダブルバーとも呼びます)”。また、楽曲の終わりに引かれる右側のみ太い線になっている二重線は“終止線(しゅうしせん)”と呼ばれます。この終止線にはふたつの表記方法があり、それが“フェルマータ(Fermata)”と“フイーネ(Fine)”。終止線とともに使われることがあるので覚えておきましょう。どちらを使うかは記譜者によって分かりますが、読み手としてはどちらもまったく同じ意味を持つ記号として記憶してさえいれば問題ありません。

ちなみに下記の五線譜の一番最初についている、くるくると渦巻いているような記号は“ト音記号”と呼ばれるものです。この記号については後述(P57)しておりますのでそちらを参照して下さい。

図2-1b

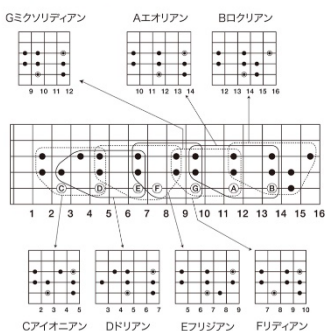


□ 終止線の表記バリエーション



Cメジャー・キーを例にとって説明してきます。まず、Cから始まる“CDEFGAB”がCメジャー・スケールですが、チャーチ・モードではこれの起点音をDにしたり(DEF GABCという音の並びにする)、F音を起点にしたり(FGABCDEという音の並びなど、音階の構成音自体は全く同じながら、起点となる音を変えるのです。このモード内ではどの音を起点にするかで各音階に名前がついており、Cメジャー・キーではCから始まる普通の“ドレミファソラシ(CDEFGAB=Cメジャー・スケール)”を“Cアイオニアン”と呼び、そこから“Dドリアン”“Eフリジアン”“Fリディアン”“Gミクソ

図2-4j / Cメジャー・キーにおけるモード・スケール



リディアン”“Aエオリアン”“Bロクリアン”となっています(図2-4j)。おわかりと思いますが、Aエオリアン・スケールはAナチュラル・マイナー・スケールとまったく同じですね。

もう一つ、Gメジャー・キーを例にとると、Gから始まる“GABCDEF#A”のGメジャー・スケールを“Gアイオニアン”と呼び、起点音をAに移した“ABCDEF#G”という音階を“Aドリアン”、そこから“Bフリジアン”“Cリディアン”“Dミクソリディアン”“Eエオリアン”“F#ロクリアン”となります。EエオリアンはEナチュラル・マイナー・スケールとまったく同じ音階ですね。

このチャーチ・モードの各スケールの名前と順番は、それぞれの頭文字を取って“アドファミエロ”と覚えてしまいましょう。

□ モード・スケールの活用

チャーチ・モードの各音階の各音の並びを覚えやすいように、まずは一つのメジャー・スケール(この場合C)から派生する形で紹介しました。これら各スケールは、元がCメジャー・スケールなので、キー・Cの楽曲のDmの部分でDドリアン、Emの部分でEフリジアンといったように用いれば、間違いなく使用することができます。しかし、そのような使い方は、各スケールの習性を捉えづらいですし、実践するとしても多くの場合、良い意味で細か過ぎてしまい、プレイ、フレーズも窮屈なものとなりがちです。これだけではそもそも、チャーチ・モードの知識は必要なのか? とも異いを感じ、それならば、コード・チェンジをしようというCメジャー・スケール発という意識でプレイした方が、よりナチュラルにプレイできるはずと思う人も多いかと思えます。モード・スケールの知識が本当に使えるのは、Cのコードがあった場合に、Cメジャー・スケール(Cアイオニアン)で弾くのか、それとも同じトニック音を持つCリディアン、またはCミクソリディアンで弾くのか? といったような選択ができる場合です。試してみましょう。

Fで覚えたリディアンのポジションを、そのシェイプを頼ったまま、トニック

2小節の進行	4小節の進行
<p>譜例1: すぐに合わせられる! ドリアン発で弾けるパターン</p> <p>< key = Am ></p> <p>▶ ロック、ポップス、ジャズ、ラテン、ファンクなど様々なジャンルで多用されるドリアンスケールのみで弾けるコード進行。Am7の1コードだけよりもドラビアン感が得られます。</p>	<p>譜例1: イチ・ロク・ニー・ゴーの基本的な循環コード</p> <p>< key = C ></p> <p>▶ 「1→11m→11m→V」のため「イチ・ロク・ニー・ゴー」と呼ばれる代表的な循環コード。キーに即したメジャー・スケール(この場合Cメジャー)のみで弾きとおすことができます。</p>
<p>譜例2: ファンクでもイケる! ブルースパターン</p> <p>< key = A ></p> <p>▶ トニック(1)のコードを7thコードにしたブルージーな進行。展開がない分、12小節のブルース進行よりもイメージにブレい可能。ファンクのリズムでもよく用いられます。</p>	<p>譜例2: 「イチ・ロク・ニー・ゴー」の発展形</p> <p>< key = C ></p> <p>▶ 「イチ・ロク・ニー・ゴー」の「ロク(11)」を、ノンダイアトニック(ドレミ以外の音を含む)の7thコードにしたパターン。117を効果することでお洒落感、知的度が上がります!</p>
<p>譜例3: 爽やかポップスパターン</p> <p>< key = C ></p> <p>▶ メジャー7thコードふたつをくり返す。お洒落な進行。16ビート系カッティング、スペースシーなアルペジオなど、様々なテンポ/リズムで、9th音を追加するのもGood!</p>	<p>譜例3: キーに注意の循環パターン</p> <p>< key = C / Am ></p> <p>▶ ルートの動きがすべて完全4度上行(完全5度下行)で進んでいく、4度進行(5度進行)と呼ばれるパターン。Emからはじまるが(EmはCの代理コード)、キーはC/Amです。</p>
<p>譜例4: 「ホワッツ・ゴイン・オン」風ソウルパターン</p> <p>< key = E ></p> <p>▶ マーヴィン・ゲイの名曲のメロでも用いられている進行。軽快かつうねりのあるソウル系リズムなどで、ドラム/ベースとのリズムの絡みを堪能できるでしょう。</p>	<p>譜例4: これだけで「スタンド・バイ・ミー」風</p> <p>< key = A ></p> <p>▶ 各コードを2小節ずつにすれば、セッションで頼みの「スタンド・バイ・ミー」を、イントロから歌メロまで弾けます。ストロークやアルペジオなど右手の変化で展開させましょう。</p>
176	巻末付録 セッションで役立つコード進行ネタ集 177

■ 書誌情報

書名：新・ギタリストのための全知識 増補新装版

著者：成瀬 正樹

定価：2,420 円（本体 2,200 円 + 税 10%）

発売：2024 年 6 月 20 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3124317106/>

CONTENTS

- 第一章 楽器についての基礎知識
- 第二章 ギタリストと譜面
- 第三章 練習について
- 第四章 ギタリストのための音楽理論
- 第五章 "ギター・テクニク"とは
- 第六章 ギターとアンサンブル
- 第七章 音楽ツールの最先端
- 巻末付録 セッションで役立つコード進行ネタ集

PROFILE

成瀬 正樹（なるせ まさき）

ギタリスト／アレンジャー／楽器系ライター。学生時代よりギターを始め、大学卒業後よりテレビ・コマーシャル、企業 PV などの音楽制作に携わるようになる。そのほか映像作品の音効、譜面の作成などさまざまな音楽業務をこなしている。現在は音楽専門学校の講師、プライベート・レッスンなどを行ないつつ、ギター・マガジンを始めとする楽器専門誌にて演奏の指南、楽器・機材

のレビューも担当。ポップスからヘヴィメタルまで幅広いジャンルをカバーし、また柔らかい口調とわかりやすい解説は読者からの支持も高い。おもな著作物は、『ギター・マガジン スケール活用レシピ』、『ギタリストのための音楽理論塾』、『ゲーム音楽でみるみる上達ギター・テク!』、『決定版 ギター・スケール・スタイル・ブック』、『究極コード図鑑』、『はじめてのコード・ブック [ギター版]』（すべて小社刊）など

©成瀬正樹オフィシャル Web サイト→<http://www.remus.dti.ne.jp/~m-naruse/>

【株式会社リットーミュージック】<https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』、Tシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】<https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp